

# 令和7年度 介護保険事業者 集団指導資料

---

令和8年3月

鳥取市福祉部地域福祉課指導監査室

## 目次

# ○共生型サービスについて

- I 共生型サービスとは
- II 共生型サービスの対象となるサービス
- III 共生型サービスの指定
- IV 立ち上げと運営のポイント

# I 共生型サービスとは

---

## ○共生型サービスとは①

「**共生型サービス**」とは、「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律において、訪問介護、通所介護、短期入所生活介護等について、高齢者や障害児者が共に利用できるよう、平成30年から始まった制度です。



## ○共生型サービスとは②

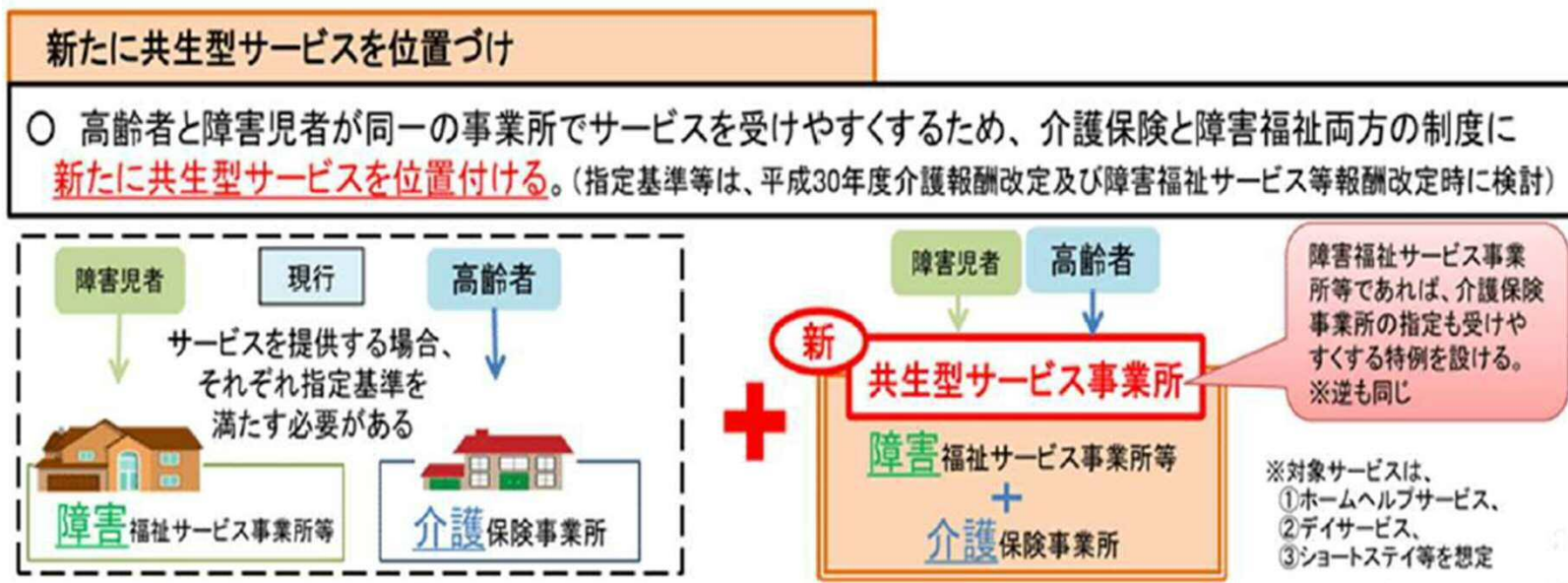
高齢者と障がいのある方が同一事業所でサービスを受けやすくなるだけでなく、

- 高齢者・障害者とも、利用できる事業所の選択肢が増える。
- 「介護」や「障害」といった枠組みにとらわれず、多様化・複雑化している福祉ニーズに臨機応変に対応することができる。
- 地域共生社会を推進するためのきっかけとなる。
- 人口減少社会にあっても、地域の実情に応じたサービス提供体制整備や人材確保を行うことができる。

といったように、各地で発生している課題の解決や掲げている目標の達成の一助となることが期待されています。

# ○共生型サービスとは③

介護保険法又は障害福祉サービスの指定を受けている事業所に関して、設備基準や人員基準の緩和が適用されます。具体的には介護保険法の指定を受けている事業所が共生型障害福祉サービスの指定を受けたい場合には、介護保険法の設備基準及び人員基準を満たしていれば障害福祉サービスの事業所指定を受けることができます。



# ○共生型サービスのメリット①

介護サービス事業所が共生型障害福祉サービスの指定を受けることで、地域の実情に合わせて、限られた福祉人材をうまく活用しながら必要な支援を行き渡らせることが期待されています。

## ○介護サービス事業所が共生型障害福祉サービスの指定を受ける場合（障害報酬）

見直し前

山間地域など近くに事業所がない場合、遠方の事業所までの通所が必要。



見直し後

近隣の通所介護事業所が共生型生活介護になることで、身近な場所でのサービスが可能に。



## ○共生型サービスのメリット②

障害児者が65歳以上になっても、使い慣れた事業所でサービスを利用しやすくなる。

従来の制度では、65歳になった障害児者は、馴染みのヘルパーや通い慣れたデイサービス事業所等を変更せざるを得ない状況でしたが、当該事業所が共生型サービスとして介護保険サービスの指定を受けていれば、65歳以降も同じ事業所からサービスを継続的に利用することができます。



# 共生型サービスの概要

○ 介護保険法の訪問介護・通所介護・（介護予防）短期入所生活介護については、障害者総合支援法若しくは児童福祉法の指定を受けている事業所からの申請があった場合、「共生型サービス」として指定が可能。

## 共生型サービスを活用することのメリット

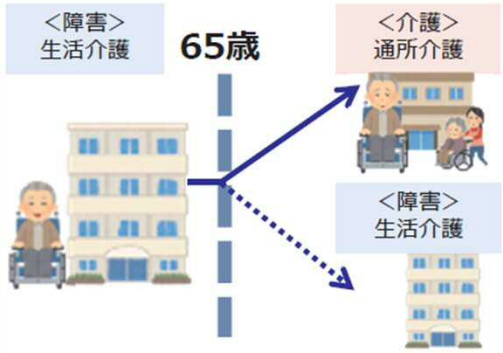
### 利用者

- ① 障害者が65歳以上になっても、従来から障害福祉で利用してきたサービスの継続利用が可能となる。
- ② 高齢者だけでなく、障害児・者など多様な利用者が共に暮らし支え合うことで、お互いの暮らしが豊かになる。

①

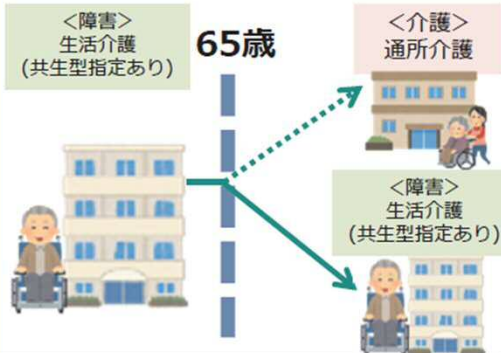
#### 共生型サービス開始前

65歳を境に、なじみのある事業所から介護サービス事業所へ移行する可能性。



#### 共生型サービス開始後

なじみのある事業所が共生型サービスになることで、65歳以降も引続き通所可。



②

【地域の実践例】  
「富山型デイサービス」



### 事業所

障害福祉事業所、介護保険事業所それぞれの基準を満たす必要なし。

※ 障害福祉事業所の指定を受けた事業所であれば、基本的に共生型サービスの指定を受けることができるよう、特例基準を設定。

### 地域

地域の実情にあわせて、限られた福祉人材を有効に活用することが可能。

介護保険と障害福祉の両制度の基準や高齢者と障害児・者の支援内容の違いを踏まえ、サービスの質の確保に十分留意をしつつ、共生型サービスの指定を推進

1

## 共生型サービスの実施により期待されること

- 共生型サービスを実施することにより、具体的には以下のような地域課題の解決が可能。  
※ 1事業所で介護保険サービス・障害福祉サービスの両方の指定を受けることによっても同様の課題解決が可能。

① 「介護」や「障害」といった枠組みにとらわれず、多様化・複雑化している福祉ニーズに臨機応変に対応することができる。

② 人口減少社会にあっても、地域の実情に応じたサービス提供体制整備や人材確保を行うことができる。

③ 各地域で地域包括ケア・福祉のまちづくりを展開するためのきっかけとなる。

**解決可能と想定される地域課題**

似たようなサービスがあるのだけれど・・・

近所に要介護高齢者がいる。近くに介護保険のデイサービス事業所がないので、遠くの事業所まで通っている。障害者向けのデイサービス事業所は近くにあるのだが・・・

役所のどこに相談すればよいのか・・・

介護保険サービスだけでは解決できなさそうな悩み、障害福祉サービスだけでは解決できなさそうな悩みは役所のどこに相談すればよいのだろう。介護と障害、それぞれの担当窓口はあるけれど、両方にまたがる相談は受けしてもらえるのか・・・

地域活動を活性化させたい・・・

介護事業所や障害事業所が中心となって地域活動を行っているところもあると聞く。多様な利用者を受け入れている事業所なら、より親しまれやすいのではないだろうか・・・

続けて同じ事業所に通いたいのに・・・

長年、障害福祉事業所を利用していた障害者が65歳になった。本人は続けて同じ事業所を使いたいと言うが、介護保険事業所に移らなければいけないのか・・・


親子で一緒に過ごしたい

障害福祉事業所の利用者の母親が要介護となった。ケアマネジャーからは、デイサービスに通って機能訓練をした方がよいと言われているが、本人は子どもと同じ事業所に通いたいと言っている。どうにかできないものか・・・

人材が足りない・・・

介護保険サービス、障害福祉サービスともに地域に需要があるが、それぞれ事業所を整備していくと人材が不足する。解消するいい方法はないものか・・・

共生型サービスの  
実施により解決可能



令和2年度老人保健健康増進等事業「共生型サービスの実態把握及び普及啓発に関する調査研究事業」報告書（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）より作成

2

## Ⅱ 共生型サービスの 対象となるサービス

---

## 共生型サービスの対象となるサービス

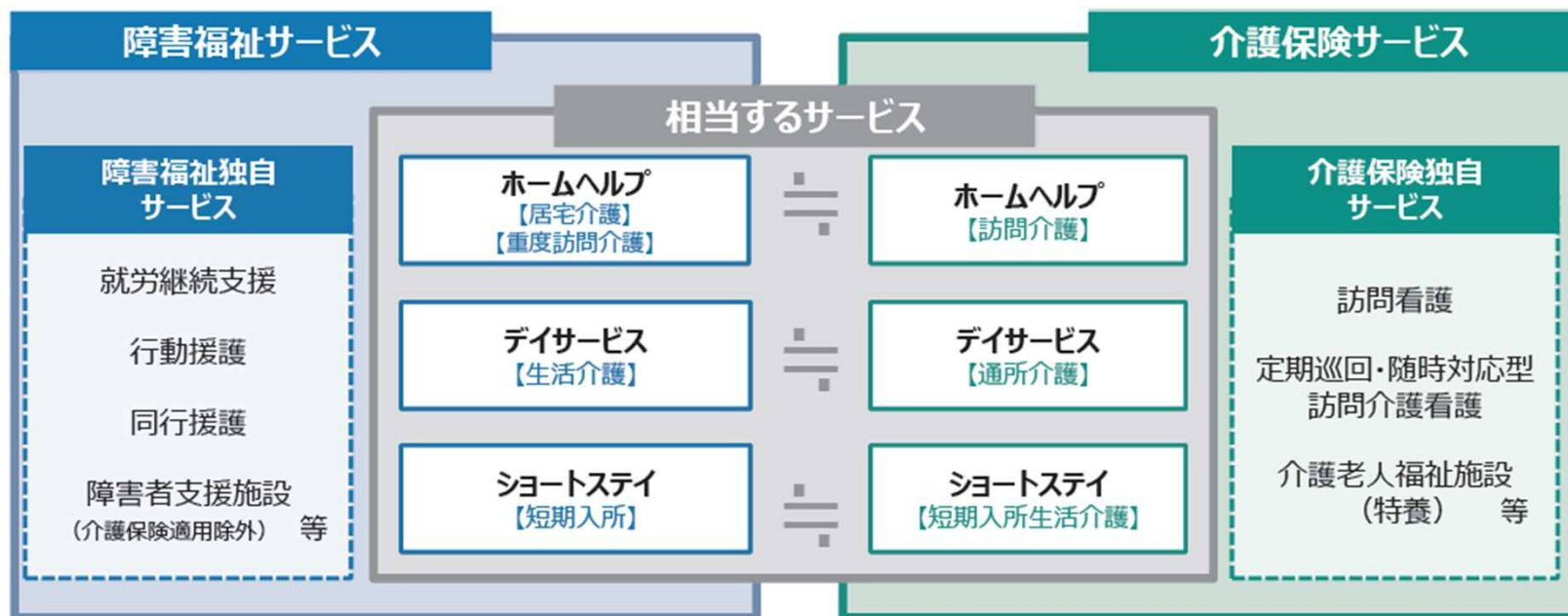
- 共生型サービス創設の目的に照らし、以下のサービスを対象としている。
- ① 高齢障害者の介護保険サービスの円滑な利用を促進する観点から、介護保険優先原則が適用される介護保険と障害福祉両方の制度に相互に共通するサービス
  - ② 現行の基準該当障害福祉サービスとして位置付けられているサービス

	介護保険サービス		障害福祉サービス等
ホームヘルプサービス	○ 訪問介護	⇔	○ 居宅介護 ○ 重度訪問介護
デイサービス	○ 通所介護 ○ 地域密着型通所介護	⇔	○ 生活介護（主として重症心身障害者を通わせる事業所を除く） ○ 自立訓練（機能訓練・生活訓練） ○ 児童発達支援（主として重症心身障害児を通わせる事業所を除く） ○ 放課後等デイサービス（同上）
ショートステイ	○ 短期入所生活介護 ○ 介護予防短期入所生活介護	⇔	○ 短期入所
「通い・訪問・泊まり」といったサービスの組合せを一体的に提供するサービス※	○ 小規模多機能型居宅介護 ○ 介護予防小規模多機能型居宅介護 ○ 看護小規模多機能型居宅介護	→	○ 生活介護（主として重症心身障害者を通わせる事業所を除く） ○ 自立訓練（機能訓練・生活訓練） ○ 児童発達支援（主として重症心身障害児を通わせる事業所を除く） ○ 放課後等デイサービス（同上）
	□ 通い	→	○ 短期入所
	□ 泊まり	→	

※ 障害福祉サービスには介護保険の（看護）小規模多機能型居宅介護と同様のサービスはないが、障害福祉制度における基準該当の仕組みにより、障害児・者が（看護）小規模多機能型居宅介護に通ってサービスを受けた場合等に、障害福祉の給付対象となっている。

## 障害福祉サービスと介護保険サービスとの関係

- 障害福祉制度と介護保険制度においては、それぞれ様々なサービスが設けられているが、サービスの内容や機能面から、障害福祉サービスに類似する（「相当する」）介護保険サービスがある場合には、障害者総合支援法第7条に基づき、原則介護保険サービスの利用が優先されることになる。



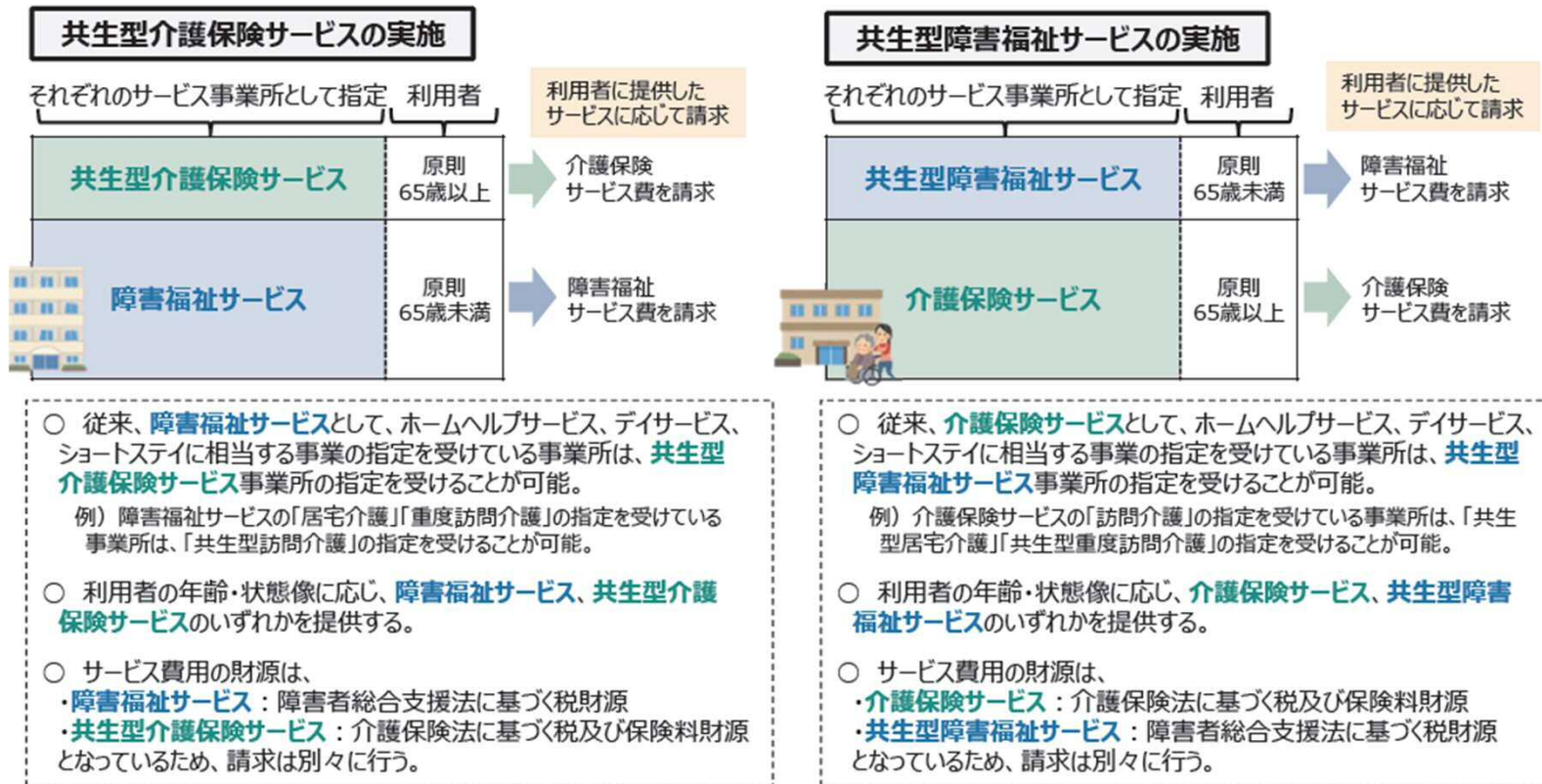
＜障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律＞（平成十七年法律第百二十三号）（抄）

（他の法令による給付等との調整）

第七条 自立支援給付は、当該障害の状態に月、介護保険法（平成九年法律第百二十三号）の規定による介護給付、健康保険法（大正十一年法律第七十号）の規定による療養の給付その他の法令に基づく給付又は事業であつて政令で定めるもののうち自立支援給付に相当するものを受け、又は利用することができるときは政令で定める限度において、当該政令で定める給付又は事業以外の給付であつて国又は地方公共団体の負担において自立支援給付に相当するものが行われたときはその限度において、行わない。

## 共生型サービスの実施イメージ

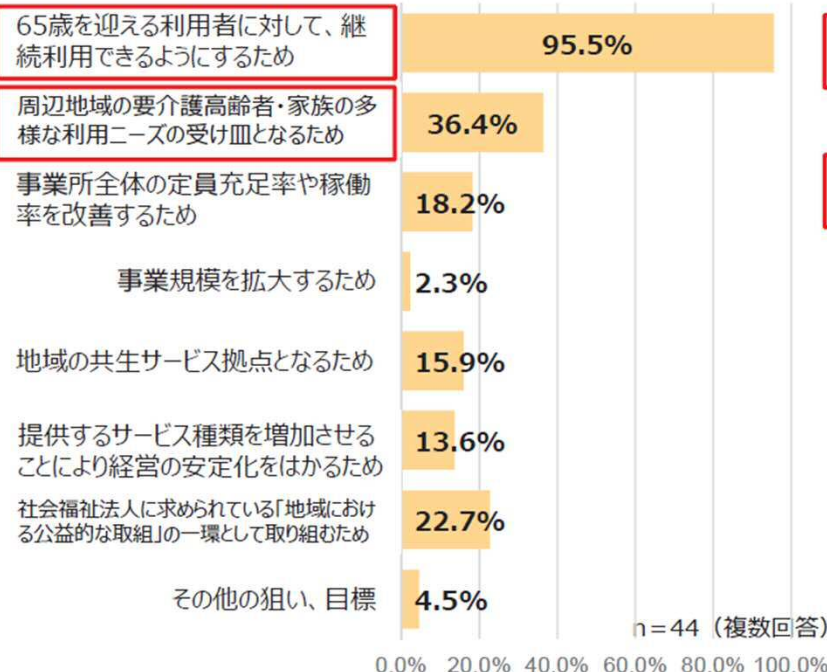
- 介護保険サービス・障害福祉サービス等のホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイに相当する事業の指定を受けている事業所は、障害福祉サービス等・介護保険サービスの同類型のサービスについて、「共生型サービス」の指定を受けることが可能。
- 利用者の年齢・状態像に応じ、介護保険サービス・障害福祉サービス・共生型障害福祉サービス・共生型介護保険サービスのいずれかを提供する。



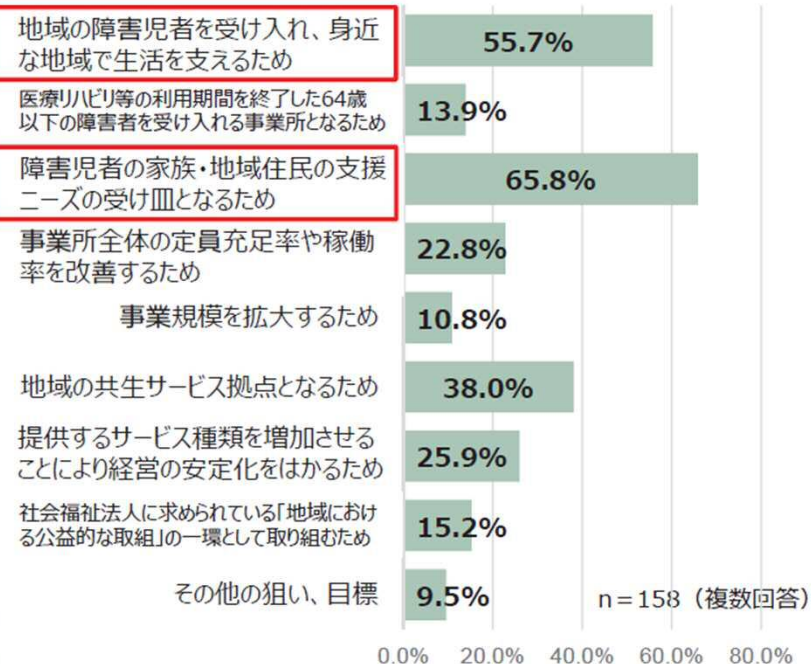
## 共生型サービス 開始した狙いや目標

- 共生型介護保険サービスを開始した狙いや目標をみると、「65歳を迎える利用者に対して、継続利用できるようにするため」（95.5%）が最も多く、次いで「周辺地域の要介護高齢者・家族の多様な利用ニーズの受け皿となるため」（36.4%）が多かった。
- 共生型障害福祉サービスを開始した狙いや目標をみると、「障害児者の家族・地域住民の支援ニーズの受け皿となるため」（65.8%）が最も多く、次いで「地域の障害児者を受け入れ、身近な地域で生活を支えるため」（55.7%）が多かった。

### 共生型介護保険サービスを開始した狙いや目標



### 共生型障害福祉サービスを開始した狙いや目標

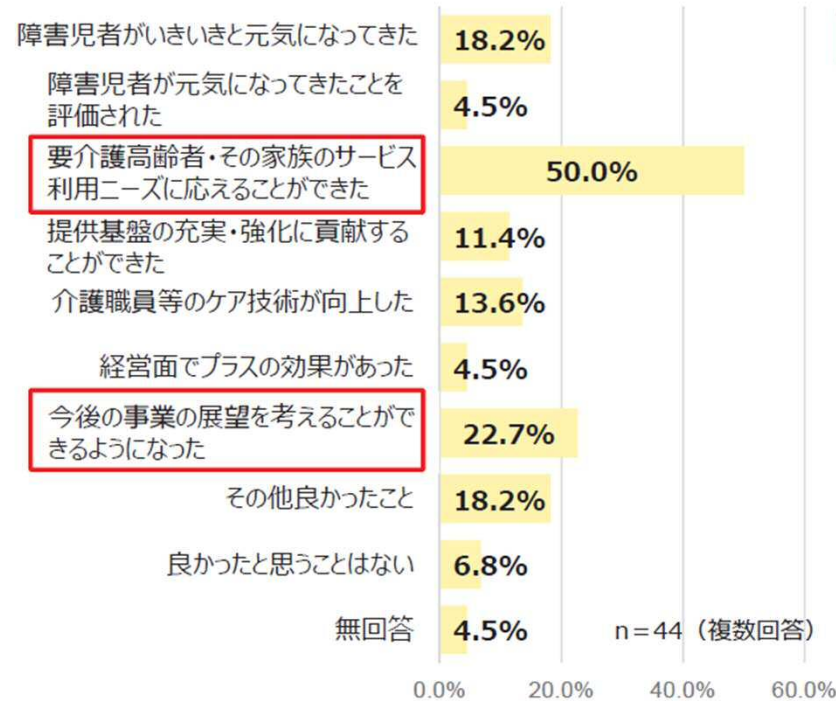


令和2年度老人保健健康増進等事業「共生型サービスの実態把握及び普及啓発に関する調査研究事業」報告書（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）（抜粋） 1

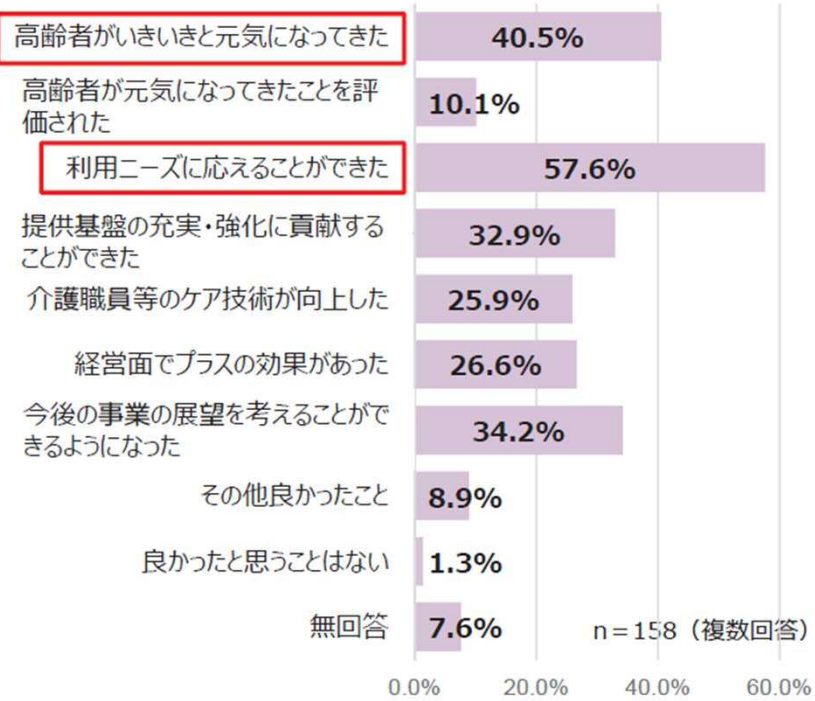
## 共生型サービスを始めて良かったと思うこと

- 共生型介護保険サービス事業所が、共生型サービスを始めて良かったと思うことをみると、「要介護高齢者・その家族のサービス利用ニーズに応えることができた」（50.0%）が最も多く、次いで「今後の事業の展望を考慮することができた」（22.7%）が多かった。
- 共生型障害福祉サービス事業所が、共生型サービスを始めて良かったと思うことをみると、「利用ニーズに応えることができた」（57.6%）が最も多く、次いで「高齢者がいきいきと元気になってきた」（40.5%）が多かった。

### 共生型介護保険サービス事業所の場合



### 共生型障害福祉サービス事業所の場合



## 共生型サービス サービスを実施することの効果

- 共生型サービスを実施したことの効果をみると、利用者本人・家族、職員、事業所運営それぞれ以下のような回答があった。

### 利用者本人・家族への効果

いずれも自由記述より抜粋

- 同一事業所を継続して利用できることにより、利用者・家族の満足感・安心感があることをあげる事業所が多かった。また、障害者と高齢者が同じ空間でサービスを利用することによる効果をあげた事業所もあった。
- 例) ・ 継続して同一事業所に通所できることに満足している。  
・ 障害福祉サービス利用時から同じ介助者でケアを行うため、安心している。  
・ 共生型サービス指定前は他事業所を利用していたが、指定後に利用を再開した利用者もいる。  
・ 介護保険サービスへの移行時、選択肢の一つとして通い慣れた環境である現在利用中の施設があることで安心した。  
・ 利用者間に生活スタイルの違いがあったため、どうなることかと思っただが、高齢者が加わることで和やかな雰囲気が増えた。

### 職員への効果

- 職員の介護に関する理解度の向上や、職員間・多職種交流の増加、モチベーションアップをあげる事業所が多かった。
- 例) ・ 介護保険制度への関心や理解が高まった。 ・ 職員間でも話し合う機会が増えた。  
・ 他職種との連携やスキルアップ（介護技術等）につながる。  
・ 現在障害福祉サービスを利用している利用者に、事業所の特徴として共生型サービスを提供していることを伝えることができる。  
・ 共生型サービス指定により利用を再開した利用者や、継続して利用することとした利用者がいたことで、「利用者から選ばれた事業所」との意識が芽生え、励みになっている。

### 事業所運営への効果

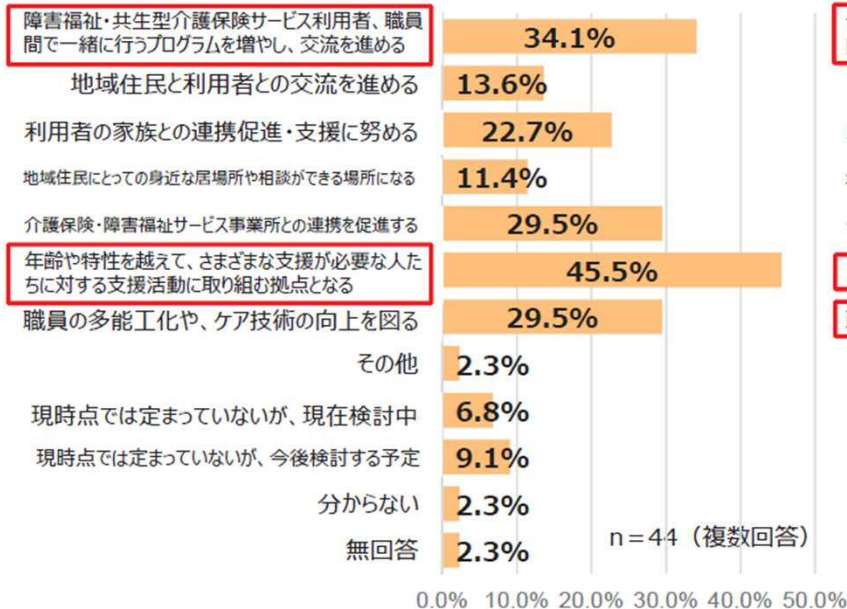
- 利用者が同事業所を継続して利用することによる収入維持、地域における共生型サービスの理解促進をあげる事業所があった。
- 例) ・ 65歳になったからという理由だけで、利用者が減ってしまうことを防ぐことができる。  
・ 他の事業所に移行することがないため、多少の収入維持になると感じる。  
・ 地域には、共生型サービスを提供することのメリットがとても伝わってきている。他の事業所とは異なる、共に生きる、助け合うという素晴らしい効果がでている。

令和元年度障害者総合福祉推進事業「共生型サービスに関する実態調査」報告書（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）（抜粋） 3

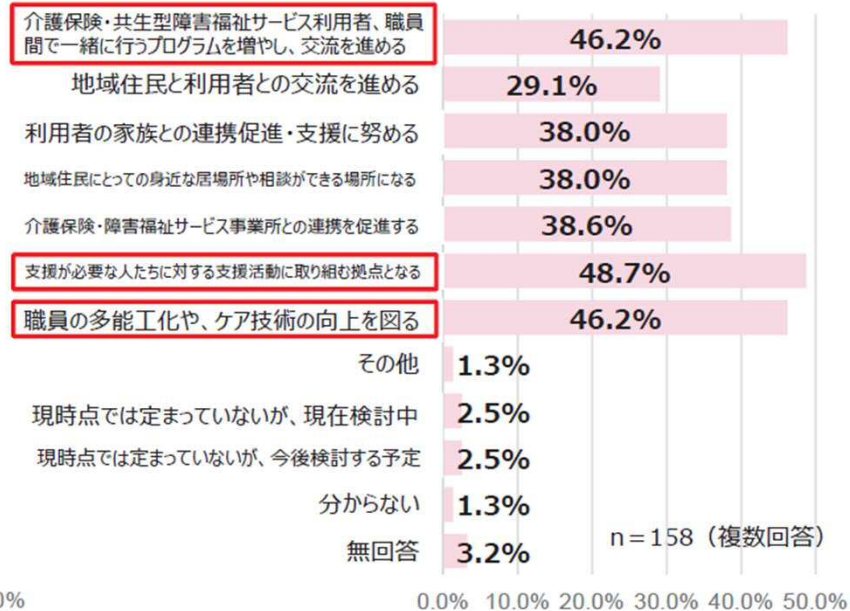
## 共生型サービス 今後の事業所経営や運営上のテーマ

- 共生型介護保険サービス事業所が、今後の事業所経営や運営上のテーマとして考えていることをみると、「年齢や特性を越えて、さまざまな支援が必要な人たちに対する支援活動に取り組む拠点になること」(45.5%)が最も多く、次いで「事業所の障害福祉サービス利用者、共生型介護保険サービス利用者、職員間で一緒に行うプログラムを増やし、交流を進めること」(34.1%)が多かった。
- 共生型障害福祉サービス事業所が、今後の事業所経営や運営上のテーマとして考えていることをみると、「支援が必要な人たちに対する支援活動に取り組む拠点になる」(48.7%)が最も多く、次いで「介護保険・共生型障害福祉サービス利用者、職員間で一緒に行うプログラムを増やし、交流を進める」「職員の多能工化や、ケア技術の向上を図る」(46.2%)が多かった。

### 共生型介護保険サービス事業所の場合



### 共生型障害福祉サービス事業所の場合



# Ⅲ 共生型サービスの指定

---

## ○共生型サービスの指定

○介護保険サービス事業所が障害福祉サービスを、障害福祉サービス事業所が介護保険サービスを提供する場合、共生型サービス創設以前は介護保険サービス・障害福祉サービスそれぞれに課された人員配置基準等を満たした上で、指定を受ける必要がありました。

○しかし、共生型サービスを活用する場合、これまで提供していたサービスと同様の人員配置基準・設備基準による運営が可能となるほか、指定を受ける際の手続きも簡略化されます。

## 介護保険と障害福祉相互に相当するサービスの基準の違い

- 介護保険優先原則が適用される、相互に「相当するサービス」（ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイ）について、介護保険と障害福祉両方の制度を比較すると、例えば以下のような違いがある。
- このため、介護保険又は障害福祉のいずれかの指定を受けている事業所が、もう一方の制度における基準を満たしているとは限らない。

### （例）デイサービスの基準の違い

①	定員	障害福祉サービスでは、原則20名以上とされているが、介護保険サービスでは、特段基準は設けられていない。
②	人員配置	介護職員等について、障害福祉サービスでは、利用者の平均障害支援区分ごとに配置すべき人員数が定められているが、介護保険サービスでは、利用者の平均要介護度によらず、一律での配置基準が設けられている。
③	設備	障害福祉サービスでは、訓練・作業室を設置することとなり、それらは支障がない広さで足りることとなっている。一方、介護保険サービスでは、食堂及び機能訓練室を設置することとなり、利用者1人あたり3㎡の面積が必要となっている。

障害	生活介護の基準		介護	通所介護の基準	
	定員	原則20人以上		定員	—
人員配置	管理者	常勤専従	基準が異なるため、 両方の指定を同時に 受けることは困難	管理者	常勤専従
	サービス管理責任者 〔実務経験3～10年 +研修30.5時間〕	1人		生活相談員 (社会福祉士等)	1人
	看護職員、理学療法士又は作業療法士及び生活支援員の総数	平均障害支援区分4未満 → <u>6:1</u> 平均障害支援区分4以上5未満 → <u>5:1</u> 平均障害支援区分5以上 → <u>3:1</u>		介護職員	5:1 (利用者15人まで1人以上で可) (常勤1以上)
設備	訓練・作業室	支障がない広さ	設備	食堂及び機能訓練室	3㎡×利用定員

## 共生型介護保険サービス指定に係る特例

- 障害福祉サービス事業所が共生型介護保険サービス事業所の指定を受けるにあたっては、介護保険法第70条第1項及び第72条の2第1項の規定により申請が必要。
- 指定はあくまでも「訪問介護」「通所介護」「短期入所生活介護」として行う。
- 指定手続きについて可能な限り簡素化を図る観点から、障害福祉サービス事業所の指定申請の際に既に提出した事項については、申請書の記載又は書類の提出を省略できることとしている。

### 共生型サービス指定に係る介護保険法上の規定

介護保険法 (平成9年12月17日法律第123号) (抄)

**第七十条** 第四十一条第一項本文の指定は、厚生労働省令で定めるところにより、居宅サービス事業を行う者の申請により、居宅サービスの種類及び当該居宅サービスの種類に係る居宅サービス事業を行う事業所（以下この節において単に「事業所」という。）ごとに行う。

**第七十二条の二** 訪問介護、通所介護その他厚生労働省令で定める居宅サービスに係る事業所について、児童福祉法（昭和二十二年法律第百六十四号）第二十一条の五の三第一項の指定（当該事業所により行われる居宅サービスの種類に応じて厚生労働省令で定める種類の同法第六条の二の二第一項に規定する障害児通所支援（以下「障害児通所支援」という。）に係るものに限る。）又は障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成十七年法律第百二十三号。以下「障害者総合支援法」という。）第二十九条第一項の指定障害福祉サービス事業者の指定（当該事業所により行われる居宅サービスの種類に応じて厚生労働省令で定める種類の障害者総合支援法第五条第一項に規定する障害福祉サービス（以下「障害福祉サービス」という。）に係るものに限る。）を受けている者から当該事業所に係る第七十条第一項（第七十条の二第四項において準用する場合を含む。）の申請があった場合（以下、略）

### 指定にあたっての留意事項

令和3年度介護報酬改定に関するQA vol.3 (令和3年3月26日) (抜粋)

**問123** 共生型サービスの指定にあたっては、現行の「訪問介護」「通所介護」「短期入所生活介護」として指定するのか。それとも、新しいサービス類型として、「共生型訪問介護」「共生型通所介護」「共生型短期入所生活介護」として指定が必要となるのか。それとも「みなし指定」されるのか。

**答** 共生型サービスは、介護保険又は障害福祉のいずれかの居宅サービス（デイサービス、ホームヘルプサービス、ショートステイ）の指定を受けている事業所が、もう一方の制度における居宅サービスの指定も受けやすくする、あくまでも「居宅サービスの指定の特例」を設けたものであるため、従前通り「訪問介護」「通所介護」「短期入所生活介護」として、事業所の指定申請に基づき自治体が指定する。

なお、当該指定の申請は、既に障害福祉サービスの指定を受けた事業所が行うこととなるが、いずれの指定申請先も都道府県（\*）であるため、指定手続きについて可能な限り簡素化を図る観点から、障害福祉サービス事業所の指定申請の際に既に提出した事項については、申請書の記載又は書類の提出を省略できることとしているので、別添を参照されたい。

（\*）定員18人以下の指定生活介護事業所等は、（共生型）地域密着型通所介護事業所として指定を受けることとなるが、当該指定申請先は市町村であるため、申請書又は書類の提出は、生活介護事業所等の指定申請の際に既に都道府県に提出した申請書又は書類の写しを提出することにより行わせることができることとしている。

※指定障害福祉サービス事業所が、（通常の）介護保険の居宅サービスの指定の申請を行う場合についても同様の取扱いとする。

# 共生型障害福祉サービス指定に係る特例

- 介護保険サービス事業所が共生型障害福祉サービス事業所の指定を受けるにあたっては、障害者総合支援法第36条第1項及び第41条の2第1項、児童福祉法第21条の5の15及び第21条の5の17の規定により申請が必要。
- 指定はあくまでも「居宅介護」「重度訪問介護」「生活介護」「短期入所」「自立訓練（機能訓練）」「自立訓練（生活訓練）」「児童発達支援」「放課後等デイサービス」として行う。
- 指定手続きについて可能な限り簡素化を図る観点から、介護保険サービス事業所の指定申請の際に既に提出した事項については、申請書の記載又は書類の提出を省略できることとしている。

## 共生型サービス指定に係る障害者総合支援法・児童福祉法上の規定／指定にあたっての留意事項

### 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

(平成17年11月7日法律第123号) (抄)

**第三十六条** 第二十九条第一項の指定障害福祉サービス事業者の指定は、厚生労働省令で定めるところにより、障害福祉サービス事業者を行う者の申請により、障害福祉サービスの種類及び障害福祉サービス事業を行う事業所（以下この款において「サービス事業所」という。）ごとに行う。

**第四十一条の二** 居宅介護、生活介護その他厚生労働省令で定める障害福祉サービスに係るサービス事業所について、児童福祉法第二十一条の五の三第一項の指定（当該サービス事業所により行われる障害福祉サービスの種類に応じて厚生労働省令で定める種類の同法第六條の二の二第一項に規定する障害児通所支援に係るものに限る。）又は介護保険法第四十一条第一項本文の指定（当該サービス事業所により行われる障害福祉サービスの種類に応じて厚生労働省令で定める種類の同法第八條第一項に規定する居宅サービスに係るものに限る。）、同法第四十二条の二第一項本文の指定（当該サービス事業所により行われる障害福祉サービスの種類に応じて厚生労働省令で定める種類の同法第八條第十四項に規定する地域密着型サービスに係るものに限る。）、同法第五十三条第一項本文の指定（当該サービス事業所により行われる障害福祉サービスの種類に応じて厚生労働省令で定める種類の同法第八條の二第一項に規定する介護予防サービスに係るものに限る。）若しくは同法第五十四条の二第一項本文の指定（当該サービス事業所により行われる障害福祉サービスの種類に応じて厚生労働省令で定める種類の同法第八條の二第二項に規定する地域密着型介護予防サービスに係るものに限る。）を受けている者から当該サービス事業所に係る第三十六条第一項（前条第四項において準用する場合を含む。）の申請があった場合（以下略）

### 児童福祉法

(昭和22年12月12日法律164号) (抄)

**第二十一条の五の十五** 第二十一条の五の三第一項の指定は、厚生労働省令で定めるところにより、障害児通所支援事業者を行う者の申請により、障害児通所支援の種類及び障害児通所支援事業を行う事業所（以下「障害児通所支援事業所」という。）ごとに行う。

**第二十一条の五の十七** 児童発達支援その他厚生労働省令で定める障害児通所支援に係る障害児通所支援事業所について、介護保険法（平成九年法律第百二十三号）第四十一条第一項本文の指定（当該障害児通所支援事業所により行われる障害児通所支援の種類に応じて厚生労働省令で定める種類の同法第八條第一項に規定する居宅サービスに係るものに限る。）、同法第四十二条の二第一項本文の指定（当該障害児通所支援事業所により行われる障害児通所支援の種類に応じて厚生労働省令で定める種類の同法第八條第十四項に規定する地域密着型サービスに係るものに限る。）、同法第五十三条第一項本文の指定（当該障害児通所支援事業所により行われる障害児通所支援の種類に応じて厚生労働省令で定める種類の同法第八條の二第一項に規定する介護予防サービスに係るものに限る。）若しくは同法第五十四条の二第一項本文の指定（当該障害児通所支援事業所により行われる障害児通所支援の種類に応じて厚生労働省令で定める種類の同法第八條の二第二項に規定する地域密着型介護予防サービスに係るものに限る。）又は障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第二十九条第一項の指定障害福祉サービス事業者の指定（当該障害児通所支援事業所により行われる障害児通所支援の種類に応じて厚生労働省令で定める種類の同法第五條第一項に規定する障害福祉サービスに係るものに限る。）を受けている者から当該障害児通所支援事業所に係る第二十一条の五の十五第一項（前条第四項において準用する場合を含む。）の申請があった場合（以下略）

## 平成30年度障害福祉サービス等報酬改定等に関するQA vol. 1

(平成30年3月30日) (抜粋)

**問2** 平成30年4月から、共生型サービス事業所の指定が可能となるが、指定の際は、現行の「居宅介護」、「重度訪問介護」、「生活介護」、「短期入所」、「自立訓練（機能訓練）」、「自立訓練（生活訓練）」、「児童発達支援」、「放課後等デイサービス」として指定するのか。それとも、新しいサービス類型として、「共生型居宅介護」、「共生型重度訪問介護」、「共生型生活介護」、「共生型短期入所」、「共生型自立訓練（機能訓練）」、「共生型自立訓練（生活訓練）」、「共生型児童発達支援」、「共生型放課後等デイサービス」として指定が必要となるのか。それとも「みなし指定」されるのか。

**答** 共生型サービスは、介護保険又は障害福祉のいずれかの居宅サービス（デイサービス、ホームヘルプサービス、ショートステイ）の指定を受けている事業所が、もう一方の制度における指定も受けやすくなるために、「指定の特例」を設けたものであることから、従前通り「居宅介護」、「重度訪問介護」、「生活介護」、「短期入所」、「自立訓練（機能訓練）」、「自立訓練（生活訓練）」、「児童発達支援」、「放課後等デイサービス」として、事業所の指定申請に基づき指定する。なお、当該指定の申請は、既に障害福祉サービス等の指定を受けた事業所が行うこととなるが、いずれの指定申請先も都道府県（\*）であるため、指定手続きについて可能な限り簡素化を図る観点から、介護保険事業所の指定申請の際に、既に提出した事項については、申請書の記載又は書類の提出を省略できることとしているので、別添資料1を参照されたい。

（\*）地域密着型通所介護事業所が共生型障害福祉サービスの指定を申請する場合の指定申請先は市町村であるが、申請書又は書類の提出は、地域密着型通所介護事業所の指定申請の際に、既に市町村に提出した申請書又は書類の写しを提出することにより行わせることができることとしている。

※ 介護保険事業所が、「共生型サービスの指定の特例」を受けることなく、通常の障害福祉サービス等の指定の申請を行う場合についても同様の取扱いとする。

## 共生型サービス指定に係る特例(指定手続き①)

### 共生型サービス事業所の指定手続の省略・簡略化

共生型介護保険サービスの事業所・共生型障害福祉サービス事業所の指定手続にあたっては、障害福祉と介護保険で相互に共通又は類似する項目について、指定の更新の際に申請書の記載又は書類の提出の省略が可能な事項を基本としつつ、以下のとおり省略又は簡素化できるとしている。

#### ホームヘルプ

介護保険法施行規則第114条・障害者総合支援法施行規則第34条の7により、以下4、5、6、8については省略可能。

	介護保険法施行規則	障害者総合支援法施行規則	省略可否
	(第114条) 訪問介護	(第34条の7) 居宅介護・重度訪問介護	
1	事業所（当該事業所の所在地以外の場所に当該事業所の一部として使用される事務所を有するときは、当該事務所を含む。）の名称及び所在地	事業所（当該事業所の所在地以外の場所に当該事業所の一部として使用される事務所を有するときは、当該事務所を含む。）の名称及び所在地	×
2	申請者の名称及び主たる事務所の所在地並びにその代表者の氏名、生年月日、住所及び職名	申請者の名称及び主たる事務所の所在地並びにその代表者の氏名、生年月日、住所及び職名	×
3	当該申請に係る事業の開始の予定年月日	当該申請に係る事業の開始の予定年月日	×
4	申請者の登記事項証明書又は条例等	申請者の登記事項証明書又は条例等	○
5	事業所の平面図	事業所の平面図	○
5の2	利用者の推定数	-	-
6	事業所の管理者の氏名、生年月日及び住所並びにサービス提供責任者の氏名、生年月日、住所及び経歴	事業所の管理者及びサービス提供責任者（中略）の氏名、生年月日、住所及び経歴	○
7	運営規程	運営規程	×
8	利用者からの苦情を処理するために講ずる措置の概要	利用者又はその家族からの苦情を解決するために講ずる措置の概要	○
9	当該申請に係る事業に係る従業者の勤務の体制及び勤務形態	当該申請に係る事業に係る従業者の勤務の体制及び勤務形態	×
10	法第七十条第二項各号（中略）に該当しないことを誓約する書面（以下略）	法第三十六条第三項各号に該当しないことを誓約する書面（以下略）	×
11	その他指定に関し必要と認める事項	その他指定に関し必要と認める事項	×

## 共生型サービス指定に係る特例(指定手続き②)

### デイサービス

介護保険法施行規則第119条・第131条の3の2、児童福祉法施行規則第18条の27・第18条の29、障害者総合支援法施行規則第34条の9・第34条の14・第34条の15により、以下4、5、7、9については省略可能。

	介護保険法施行規則	児童福祉法施行規則		障害者総合支援法施行規則			省略可否
	(第119条・第131条の3の2) 通所介護・地域密着型通所介護	(第18条の27) 児童発達支援	(第18条の29) 放課後等 デイサービス	(第34条の9) 生活介護	(第34条の14) 自立訓練 (機能訓練)	(第34条の15) 自立訓練 (生活訓練)	
1	事業所（当該事業所の所在地以外の場所に当該申請に係る事業の一部を行う施設を有するときは、当該施設を含む。）の名称及び所在地	事業所（当該事業所の所在地以外の場所に当該事業所の一部として使用される事務所を有するときは、当該事務所を含む。）の名称及び所在地	事業所（当該事業所の所在地以外の場所に当該事業所の一部として使用される事務所を有するときは、当該事務所を含む。）の名称及び所在地	事業所の名称及び所在地	事業所の名称及び所在地	事業所の名称及び所在地	×
2	申請者の名称及び主たる事務所の所在地並びにその代表者の氏名、生年月日、住所及び職名	申請者の名称及び主たる事務所の所在地並びにその代表者の氏名、生年月日、住所及び職名	申請者の名称及び主たる事務所の所在地並びにその代表者の氏名、生年月日、住所及び職名	申請者の名称及び主たる事務所の所在地並びにその代表者の氏名、生年月日、住所及び職名	申請者の名称及び主たる事務所の所在地並びにその代表者の氏名、生年月日、住所及び職名	申請者の名称及び主たる事務所の所在地並びにその代表者の氏名、生年月日、住所及び職名	×
3	当該申請に係る事業の開始の予定年月日	当該申請に係る事業の開始の予定年月日	当該申請に係る事業の開始の予定年月日	当該申請に係る事業の開始の予定年月日	当該申請に係る事業の開始の予定年月日	当該申請に係る事業の開始の予定年月日	×
4	申請者の事項証明書又は条例等	申請者の登記事項証明書又は条例等	申請者の登記事項証明書又は条例等	申請者の登記事項証明書又は条例等	申請者の登記事項証明書又は条例等	申請者の登記事項証明書又は条例等	○
5	事業所（当該事業所の所在地以外の場所に当該申請に係る事業の一部を行う施設を有するときは、当該施設を含む。）の平面図（各室の用途を明示するものとする。）及び設備の概要	事業所の平面図（各室の用途を明示するものとする。）及び設備の概要	事業所の平面図（各室の用途を明示するものとする。）及び設備の概要	事業所の平面図（各室の用途を明示するものとする。）及び設備の概要	事業所の平面図（各室の用途を明示するものとする。）及び設備の概要	事業所の平面図（各室の用途を明示するものとする。）及び設備の概要	○
6	—	利用者の推定数	利用者の推定数	利用者の推定数	利用者の推定数	利用者の推定数	×

4

## 共生型サービス指定に係る特例(指定手続き③)

### デイサービス (続き)

	介護保険法施行規則	児童福祉法施行規則		障害者総合支援法施行規則			省略可否
	(第119条・第131条の3の2) 通所介護・地域密着型通所介護	(第18条の27) 児童発達支援	(第18条の29) 放課後等 デイサービス	(第34条の9) 生活介護	(第34条の14) 自立訓練 (機能訓練)	(第34条の15) 自立訓練 (生活訓練)	
7	事業所の管理者の氏名、 生年月日及び住所	事業所の管理者及び児童 発達支援管理責任者 (中略)の氏名、生年月 日、住所及び経歴	事業所の管理者及び児童 発達支援管理責任者の 氏名、生年月日、住所及 び経歴	事業所の管理者及び サービス管理責任者の 氏名、生年月日、住 所及び経歴	事業所の管理者及び サービス管理責任者の 氏名、生年月日、住 所及び経歴	事業所の管理者及び サービス管理責任者の 氏名、生年月日、住 所及び経歴	○
8	運営規程	運営規程	運営規程	運営規程	運営規程	運営規程	×
9	利用者からの苦情を処理 するために講ずる措置の概 要	障害児又はその家族からの 苦情を解決するために講ず る措置の概要	障害児又はその家族からの 苦情を解決するために講ず る措置の概要	利用者又はその家族 からの苦情を解決する ために講ずる措置の概 要	利用者又はその家族 からの苦情を解決する ために講ずる措置の概 要	利用者又はその家族 からの苦情を解決する ために講ずる措置の概 要	○
10	当該申請に係る事業に係 る従業者の勤務の体制及 び勤務形態	当該申請に係る事業に係 る従業者の勤務の体制及 び勤務形態	当該申請に係る事業に係 る従業者の勤務の体制及 び勤務形態	当該申請に係る事業 に係る従業者の勤務 の体制及び勤務形態	当該申請に係る事業 に係る従業者の勤務 の体制及び勤務形態	当該申請に係る事業 に係る従業者の勤務 の体制及び勤務形態	×
11	-	-	-	指定障害福祉サービ ス基準第九十一条の 協力医療機関の名称 及び診療科名並びに 当該協力医療機関と の契約の内容	指定障害福祉サービ ス基準第六十二条 において準用する指定 障害福祉サービス基 準第九十一条の協力 医療機関の名称及び 診療科名並びに当該 協力医療機関との契 約の内容	指定障害福祉サービ ス基準第七十一条 において準用する指定 障害福祉サービス基 準第九十一条の協力 医療機関の名称及び 診療科名並びに当該 協力医療機関との契 約の内容	×
12	誓約書	法第二十一条の五の十五 第三項各号に該当しない ことを誓約する書面 (以下 略)	誓約書	誓約書	誓約書	誓約書	×
13	その他指定に関し必要と認 める事項	その他指定に関し必要と認 める事項	その他指定に関し必要と認 める事項	その他指定に関し必 要と認める事項	その他指定に関し必 要と認める事項	その他指定に関し必 要と認める事項	×

## 共生型サービス指定に係る特例(指定手続き④)

### ショートステイ

介護保険法施行規則第121条、障害者総合支援法施行規則第34条の11により、以下4、6、8、10、12については省略可能。

	介護保険法施行規則	障害者総合支援法施行規則	省略可否
	(第121条) 短期入所生活介護	(第34条の11) 短期入所	
1	事業所の名称及び所在地	事業所の名称及び所在地	×
2	申請者の名称及び主たる事務所の所在地並びにその代表者の氏名、生年月日、住所及び職名	申請者の名称及び主たる事務所の所在地並びにその代表者の氏名、生年月日、住所及び職名	×
3	当該申請に係る事業の開始の予定年月日	当該申請に係る事業の開始の予定年月日	×
4	申請者の登記事項証明書又は条例等	申請者の登記事項証明書又は条例等	○
5	当該申請に係る事業を指定居宅サービス等基準第百二十一条第二項の規定の適用を受ける特別養護老人ホームにおいて行う場合又は同条第四項に規定する併設事業所(次号において「併設事業所」という。)において行う場合にあっては、その旨	事業所の種別(指定障害福祉サービス基準第百十五条第一項に規定する併設事業所(次号及び第七号において「併設事業所」という。))又は同条第二項の規定の適用を受ける施設の別をいう。	×
6	建物の構造概要及び平面図(当該申請に係る事業を併設事業所において行う場合にあっては、指定居宅サービス等基準第百二十四条第三項に規定する併設本体施設又は指定居宅サービス等基準第百四十条の四第三項に規定するユニット型事業所併設本体施設の平面図を含む。)(各室の用途を明示するものとする。)並びに設備の概要	建物の構造概要及び平面図(当該申請に係る事業を併設事業所において行う場合にあっては、指定障害福祉サービス基準第百十七条第二項に規定する併設本体施設の平面図を含む。)(各室の用途を明示するものとする。)並びに設備の概要	○
7	当該申請に係る事業を指定居宅サービス等基準第百二十一条第二項の規定の適用を受ける特別養護老人ホームにおいて行うときは当該特別養護老人ホームの入所者の定員、当該特別養護老人ホーム以外の事業所において行うときは当該申請に係る事業の開始時の利用者の推定数	当該申請に係る事業を併設事業所において行うときは利用者の推定数、指定障害福祉サービス基準第百十五条第二項の規定の適用を受ける施設において行うときは当該施設の入所定員	×
8	事業所の管理者の氏名、生年月日及び住所	事業所の管理者の氏名、生年月日、住所及び経歴	○
9	運営規程	運営規程	×
10	利用者からの苦情を処理するために講ずる措置の概要	利用者又はその家族からの苦情を解決するために講ずる措置の概要	○
11	当該申請に係る事業に係る従業者の勤務の体制及び勤務形態	当該申請に係る事業に係る従業者の勤務の体制及び勤務形態	×
12	指定居宅サービス等基準第百三十六条(指定居宅サービス等基準第百四十条の十三において準用する場合を含む。)の協力医療機関の名称及び診療科名並びに当該協力医療機関との契約の内容	指定障害福祉サービス基準第百二十五条において準用する指定障害福祉サービス基準第九十一条の協力医療機関の名称及び診療科名並びに当該協力医療機関との契約の内容	○
13	誓約書	誓約書	×
14	その他指定に関し必要と認める事項	その他指定に関し必要と認める事項	×

6

# IV 立ち上げと運営のポイント

---

## 共生型サービス はじめの一步 ～立ち上げと運営のポイント～

- 共生型サービスの普及が進まない理由として、以下のような意見が寄せられたことから、令和2年度老健事業において、事業所・自治体向けに「共生型サービス はじめの一步 ～立ち上げと運営のポイント」を作成。
  - ・事業所から：共生型サービスをよく知らない。始めるにあたってどのような準備や手続きが必要かわからない。
  - ・自治体から：共生型サービスの実施により、どのような地域課題が解決されるかわからない。共生型サービスを始めたいと考える事業所をどのように支援してよいかわからない。



### 共生型サービス はじめの一步 ～立ち上げと運営のポイント～ 概要

共生型サービスの立ち上げ・立ち上げ支援にあたり、事業所・自治体が知っておくべき事項について、体系的に整理。

#### 共生型サービスについて知る

- **共生型サービスとは**  
⇒ 共生型サービス創設の経緯、対象となるサービス、サービスを開始することで「変わることを」提示。
- **共生型サービスの取組事例**



#### 共生型サービスを立ち上げる

- **共生型サービスを開始するまでのポイント**  
⇒ 開始に必要な準備を整理、手順として提示。
  - ① 事業所の職員と話し合おう
  - ② 共生型介護保険サービス、共生型障害福祉サービスを知ろう
  - ③ 利用者確保の見込みを立てよう
  - ④ 運営計画を作成しよう
  - ⑤ 自治体の所管課等に相談しよう
  - ⑥ 事業所の利用者・家族と話し合おう
  - ⑦ 事業所の周辺地域の住民にサービスの開始を知ってもらおう
  - ⑧ 必要な設備・備品を揃えよう
  - ⑨ 必要な場合は、応援人員を確保しよう
  - ⑩ 共生型サービスの提供を開始しよう

#### 共生型サービスを継続する

- **共生型サービス継続のポイント**  
⇒ 提供開始後に課題が生じた場合、既に共生型サービスを開始している事業所ではどのようにその課題を解決したか具体例を提示。

#### 共生型サービスを普及する・事業者の支援を行う

- **共生型サービス普及のポイント**  
⇒ 自治体において、どのように共生型サービスの普及を考えるべきか、どのように事業者の支援を行えばよいか、実際の事例を普及・支援に取り組む自治体の事例を交えながら提示。

令和2年度老人保健健康増進等事業「共生型サービスの実態把握及び普及啓発に関する調査研究事業」報告書（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）より作成

1